

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.190

2018年3月7日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 命を救う「心肺蘇生法」 保健・体育部会 授業研究会

保健・体育部会が、美方郡の中学校において授業研究会をおこないました。二年生の「保健」の授業で、「傷害の防止」についての授業でした。授業校では、保健の授業のほかにも、防災学習を通してすべての学年で体験活動を重視した、継続的なとりくみをおこなっているようです。本時の授業では「応急手当の意義と基本」の「心肺蘇生法」について、正しい知識を習得するとともに、実際に練習キットを使って実習をおこないました。



授業は、教科担当者と養護教員との T.T の形でおこなわれ、前半は、教科担当者が「心肺蘇生法」の手順と方法について前時の復習をしました。その際、防災学習会での実習を思い起こしながら2人の生徒が実際におこない、さらに養護教員がポイントについて図で示しながら伝えていきました。

その後、3人1組になって、「アッパーくん」というキットを用いて実習をおこないました。このキットは埼玉県での事故を教訓に心肺蘇生を多くの人が学び、実施できるようにという願いから作り出されたものだそうです。固いスポンジ部分を正しく圧迫すると音が鳴るのでわかりやすく、1分間に100回というリズムも数えやすい仕組みになっています。1人が実習し、1人が数え、もう1人が観察し評価する方法で実習がすすめられました。実習後の生徒の感想からは、「1分間でもたいへんだった。救急車が到着するまで続けることはたいへんと思った」「いざという時に勇気をもって行動できるようにしたい」など、実際の場面に遭遇したときのことを考えたものが多くありました。さらに、AED の役割や使い方、学校での設置場所についても確認し、「一人ひとりの勇気ある行動が命を救うのだ」という授業者からの強いメッセージで授業を終えました。



授業後の研究会では、「カーラーの救命曲線、AED の設定場所など養護教員ならではの専門的な説明があつて良かった」「AED が使われずに亡くなった事例、使つて助かった事例を取り上げることで生徒は真剣に話を聞きとりくむことができた」「3人組で実習をすることで、生徒どうしが注意しながら教えあつており効果があつた」といった意見が出されました。また、協力研究員からは、「本当の事例を紹介して話をしているから子どもの目が輝く。自分が一番に駆け付け救急処置をするのは勇気がある。体験からしか身につかない。何度も何度も繰り返しおこなうことが大切である」と話がありました。

今後も保健・体育部会では、子どもたちを中心とした授業をめざして研究を続けていきます。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各組合へお問い合わせください。)